



# MDP

2023 J.LEAGUE YBC Levain CUP

2023 JリーグYBCルヴァンカップ  
グループステージ第2節

@駅前不動産スタジアム

MATCHDAY PROGRAM  
サガン鳥栖オフィシャルマッチデープログラム

2023 Season | VOL.05

Sagantosu

03.26 [SUN]

15:00 KICK OFF  
VS 横浜F・マリノス



©1992 Y.MARINOS

GK Kei UCHIYAMA

35

挑戦

信念を貫く

尊敬する存在を超えるために。

チャレンジを求めてサガン鳥栖へとやって来た。昨季、超攻撃的な「エンターテインメントサッカー」でJ3を席巻し、昇格を果たした藤枝MYFC。その攻撃的なスタイルを最後方から支えていたのが内山圭だった。ペナルティエリアの外まで果敢に飛び出す幅広いカバーエリアに高い技術を備えた足元でビルドアップにも関わる。その姿はまさに朴一圭を彷彿とさせるものだが、内山自身も鳥栖の守護神の存在は強く意識するものだった。「バギさんのプレーは以前からよく見ていたし、鳥栖の試合もよく見ていた」と話す。そんなタイミングで鳥栖からオファーが来た。内山は決断の理由を「30歳になる年で何かチャレンジするのならこの年だと思っていた。そして、オファーをくれたのが鳥栖だったということ。J1にチャレンジしたい。チャレンジするのなら鳥栖でしたいと思っていた」と明かす。

鳥栖に加わったことで目標の一人としていた朴はチームメイトであり、同じポジションを争うライバルになった。間近で接するようになった朴を内山は「化け物」と笑いながら評した。「本当にストイックだし、『すごい』の一言」とレベルの高さに驚かされたと話す。ただ、そんな「化け物」との競争は自身のレベルアップにつながる。それを求めて鳥栖にやって来た。加入前、内山は朴が今季も鳥栖でプレーするのかどうかを関係者に再三、確認したという。「バギさんを間近で見たかったし、勝負したかった。だからバギさんが残らないならオファーは断るつもりでした」。仮に朴が移籍していれば空いたポジションにすんなりと取まることができていたかもしれない。しかし、内山が求めていたのはただ、試合に出ることではない。高い壁を乗り越えてポジションをつかむことだった。「僕は左利きなので、そこがバギさんとのはっきりとした違い。テンポやパスの質は僕が負けたいいけない部分」。内山にしかない武器もある。尊敬する壁を乗り越えるために。内山は日々、挑戦を続けている。